

千里地理通信

関西大学地理学・地域環境学教室会報 第86号

Newsletter of Department of Geography and Regional Environment, Kansai University

Contents

Page 1	巻頭随想
3次元形状に思う	黒木貴一
Page 2	同窓会通信
卒業生だより	第二部(夜間部)で地理や歴史を学んだ思い出
駒田剛史	
Page 3	同窓会事務局ニュース
Page 4-5	研究ノート
京阪神大都市圏における鉄道ネットワーク	朱子同
Page 6	学窓から
千葉から千里に来た理由	兒玉真太郎
Page 7	実習調査報告
宮城県仙台市での実習調査	何雪瑩
2022年度教室行事予定	
Page 8-9	日帰り巡検報告
神戸市臨海部の変貌と震災復興のいまを歩く	上野颯亜
大学院生の研究業績	
Page 10	現地報告
ヨーロッパでの在外研究	松井幸一
Page 11	教室だより
Page 12	随想
忘れられないマラソン経験	吉田道代
Page 6-7	2021年度卒業生・修了生からのひとこと
Page 9	新専修生からのひとこと

3次元形状に思う

黒木 貴一

30年以上も前の学生時代、BASICやFortranの理解はついに及ばず、大学で情報機器関連単位を全く取得できなかった劣等感は、その後の人生に暗い影を落とすことになりました。当時はワードプロセッサ専用機が全盛期で、コンピュータで文字や計算といえば、研究室にあったパソコンを用いてコマンドラインベースでMS-DOSを理解できる学生に限り、ソフトの一大太郎とLotus1-2-3を使用している状況でした。筆者は手書きと電卓でしのいでいました。コンピュータで絵といえば、気候学の院生がオープンリール式の磁気テープを計算機室で扱って、描いていたかも程度しか記憶にありません。それほどにパソコンから距離を置き逃げ回る学生生活を続けていました。就職直後もほぼ同様で、ロットリング描画がスクリーン使用に変化した程度でした。ところが社会と職場の環境はそれを許さず、次第に文字はWord、数字はExcel、描画はIllustratorなどで扱う世界に追い込まれました。そして描画は、1990年頃から、そこに投影法と座標が付与され、背後にスプレッドシートが潜在し、表面に文字ラベルを重ねるGISの歴史の歩みが鮮明となりました。

GISでは3次元形状を地図化できます。その表示機能に特化する簡易GISのGoogle Earthでは、よく知られているように3D表示された地表上に3D表示の建物を重ねることが可能です。地理学では前者を、工学なら後者を地理情報システム実習の中で主に学習するでしょう。前者の学習内容に少し触れてみます。3D表示が可能なデータ取得方法は、前世紀末では、地形図の等高線を読み取りラスター型の数値標高モデル(DEM: Digital Elevation Model)としており、国土院から50m解像度が、なぜか民間会社からは10m解像度のデータが頒布されていました。今世紀に入り、GNSS(Global Navigation Satellite System)の整備を背景に、LP(Laser Profiler)データを取得する航空レーザ測量が登場し、少し遅れて航空写真の様な多視点画像から3次元形状を構成するSfM(Structure From Motion)が登場し、双方とも高解像度のDEMを提示できるようになりました。最近では、UAV(Unmanned Aerial Vehicle)でもLPデータや航空写真を取得する時代が来ています。そして準備されたGeoTIFF形式のDEM

を使って、実習では傾斜、流域、起伏等の3次元形状の地理学的な取り扱い方法を学習することになります。

情報機器劣等感が人生の根幹を成す筆者が、そのような3次元形状の内容を教える立場となって早2年が経過しました。高い密な建物群で地表の3次元形状が隠される中、大阪暮らしの空間利用面では苦勞が絶えず若干のストレスになっています。例えば運転では、右折なのに左斜め方向に行くことを指示され、左斜め車線が高架下に潜るとようやく右折できること、左折なのに中央車線を走れることを誘導され、左方向転換中に左車線は頭上を右に飛び越えていく姿があります。そのような道路の立体構造特性は、ナビ様に支えられても未だ違和感を覚えます。景観の中にも違和感を覚える場面があります。例えば、高齢に達した際に一体どうするのかと心配になる3階建家屋、駐車場、公園、ドラッグストア、公共施設など高架下の隙間なき土地利用、入口は1階なのに全体では3階に相当する建物構造などです。この道路構造や景観に由来するストレスは、地理学的ではなく工学的センスで3次元形状を見ることに不慣れだからこそ生じるのだろうと当初は思いましたが、じきに思い直しました。

九州生活では、天空率が高く地表は広く遠くまで視認でき、土地利用は2次元平面でほぼ説明でき、平面の紙地図で地理空間情報の表示は十分でした。つまり先述のストレスは筆者が、地表の3次元形状が見えないこと、構造物の3次元形状に由来する土地利用に不慣れなこと双方から生じていたようです。これより地方にいればこのストレスをぜひ解消させたいという強い動機は生まれ難く、結果3次元空間を活用する必要に迫られた東京や大阪の研究者を中心に、3次元の地理空間情報を扱うGIS研究の進んだことが妙に納得されます。そして、現在はGIS関連技術の発展に合わせて地理空間情報の整備は進行しており、空間の3次元利用がさらに進んでいくことでしょう。

この拙稿は、地理情報システムの実習では、大阪では視認しにくい地表の3次元形状をDEMで学習する内容があることを紹介し、一方で構造物の3次元形状は筆者の理解に遅れが生じている現状を披歴したものです。そして暮らしの中で3次元形状の認識にストレスを抱かなくなった時、その時はようやく大阪の皆様の域に筆者が到達し、バランスの取れた地理情報システムの実習が提供できるのだろうと思います。(くろき たかひと:本学教授)

第二部（夜間部）で地理や歴史を学んだ思い出

駒田 剛史

私は枚方市に生まれ、現在もその地に住み続けています。史学・地理学との関わりは、高校に郷土研究会があり巡研で色々な場所をまわることから入部し、興味が増したことです。ただ、高校の成績は「社会」を除く文系よりは理数系科目の点数が良かったことから、電気・機械の機器（技術）に興味があったので、理系短期大学に進学して、電気工学を学びました。

その後、枚方市役所に技術職として就職しました。ただ、就職後、しばらくは、技術と関係の無い職務で時間の余裕もあることから、地理学や歴史学を学びたくなり、第二部（夜間部）がある関西大学文学部の史学地理学科に社会人入学しました。

そして、勤務終了後にすぐに大学へ向かう4年間のハードな生活が始まりました。勤務が長引いて何度か授業に出れないこともあり、単位が取れるかひやひやしました。学生は高校卒業して間もない人から、定年後のシニアの方まで年齢に大きな幅がありましたが、みんないっしょに、史学や地理学のいろいろな科目を広く学べたことは大変貴重な経験でした。同じ史学地理学科二部の学生という誼で、じつに多くの方々に助けていただいて、2005年3月に卒業することができました。当時は夜間でも学生数が多く、千里山キャンパスも賑わっていたので、夜間部が無いのはやはり寂しいです。今となつては、大学の巡検で色々野外をまわることができ、人生も変わっていったなと思うようになりました。

在学中は、講義の合間に大学図書館で蔵書の閲覧・貸出をし、地理学教室の高橋誠一先生・野間晴雄先生の講義に知識を膨らませるほどの楽しい思い出が甦ります。関西大学卒業後は、技術系部署に異動し、歴史や地理との関係は途切れしました。また子育て・親の介護のこともあり、時間の関係上で再び学び直すのは苦しいのですが、時間の余裕があった時に地理や歴史を学べたのはほんとうによかったと思います。

卒業論文は「枚方市域における住宅地化の進展と交通体系」というテーマで、野間先生にご指導いただき、さまざまな統計資料や地図類などを時系列で集めて分析しました。水曜7限目の「地理学専門研究（卒業演習）」には吉岡浩史、谷川喬人の両君がいたことも心強かったです。

2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症は、世界規模での社会・生活様式を大きく変化させ、経済を停滞させるほどの劇的な影響を及ぼしました。2022年2月現在も、まだまだ正常な状態にはほど遠いです。

一方、こうしたなかで、ICT（情報通信技術）の発展による学生のオンライン授業や就業者のテレワーク等で、新しい学びや働き方が可能なこともわかってきまし

た。コロナ禍のなか、学生も社会人も、授業・業務の苦境をなんとか乗り切ろうともがいています。いずれは来るであろう「アフターコロナの社会」が、「コロナ禍前の社会」とICTを活用した「新しい社会」との選択あるいは対立を迫られることもあるかもしれません。ただ、文学・芸術・スポーツや大学生活は、従来の様式が変わることはなく、永続することを祈っております。

【追記】今回、原稿を依頼されたのを機に、私の卒論で扱った後の枚方市の人口動態について、市のデータから考えてみました。2005年（H17）から2015年（H27）の市の人口コーホートを、同じ人口規模の西宮、豊中、高槻、吹田の4市と比較しています。西宮、豊中、吹田の3市は10代～40歳代の子育て世代の人口が増えているのに、枚方市と高槻市とはこの世代の人口が減っているのに愕然とし、その減少率が高槻市よりも一層激しいです。また、大阪府内の多くの市町村は大阪市への転出が多く「都心回帰」が見られる中、逆に豊中市・吹田市は大阪市からの転入が多い現象が見られ、出生率・未婚率については他市と比較して低いことから「新たな住まいを決めた理由」があるかもしれません。枚方市の転入転出アンケートの「新たな住まいを決めた理由」から「公共交通の利便性」を理由にした転入転出が高いことから、市内の公共交通の利便性が悪い場所の住民は市外へ転出し、駅・バス・道路等の公共交通の利便性が良い場所には転入があり、現在でも交通体系が重要なことは変わらないと思います。この間、市内にあった2つの私立大学のキャンパスは学生数の減少と公共交通の不便さで閉校になりました。空家問題を含め「住宅地の後退と交通体系」について考えてみたくなりました。なお、枚方市では転入転出アンケートの中で「生まれ育ったまちで愛着がある」があり、私もその一人です。

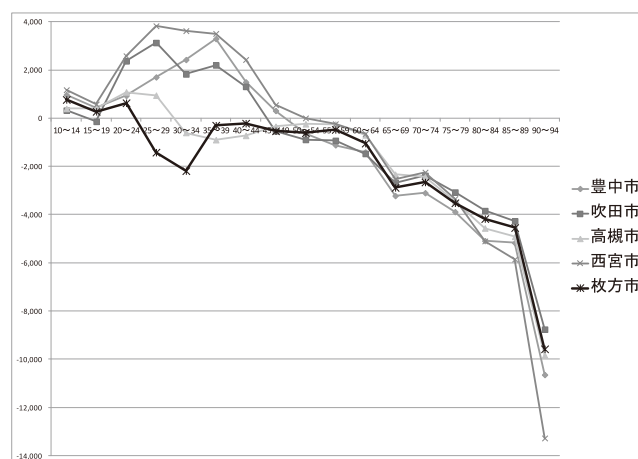


図 枚方市と同規模の大阪近郊都市の人口コーホート (2005～2015年)

(こまだ たけし：枚方市役所，2005年3月二部卒業)

〈同窓会事務局ニュース〉

- ・2021年12月11日(土)13時15分から、研究会・同窓会幹事会を開催いたしました。
- ・2022年度の行事予定は以下の通りです。変更などありましたら随時、HPでお知らせいたします。10月2日(日)秋の日帰り巡検、12月3日(土)史学・地理学会大会(学部生による実習調査ポスター発表)、12月10日(土)2022年千里地理学会大会(第4回)。
- ・2011年度卒業生への手紙による消息確認をおこない4通の返信がありました。卒業後に住所の変更等ありましたら事務局へご連絡をお願いいたします。
- ・今年度の卒業生の主な進学・就職先は以下の通りです。(50音順)
東大阪市役所, JR 四国, 住友不動産建物サービス, 泰盛貿易株式会社, 北海道庁, リクルート
- ・次の方々からご寄付をいただきました。伊東 理, 鈴記裕幸(50音順, 敬称略)
- ・同窓会通信の執筆を募集しております。1ページ1600~1800字程度, 半ページ800字程度です。執筆いただける方は教室メールアドレス[kandaichiri@gmail.com]までご連絡ください。また, 会費の納入状況などのお問合せも上記メールアドレスをお願いいたします。

地理学研究会・同窓会 令和3年度会計報告

(収入)	(円)
一般会費(8名)	30,000
新入生会費(3名)	3,000
寄付金	15,000
計	48,000
(支出)	(円)
千里地理通信第85号発送費	15,660
管理用DVDドライブ	3,150
人件費	3,000
振込手数料	440
計	22,250
(収支残高)	(円)
前年度繰越金	293,886
収入-支出	25,750
計	319,636

2021年度地理学研究会・同窓会幹事会のご報告

地理学同窓会総会(12/11)に先立ち開催された幹事会では、1. 研究会・同窓会の統合について、2. 次年度以降の行事について、3. 本年度の決算と来年度の予算(仮)、4. その他、が議論されました。その中で1. 研究会・同窓会の統合について、以下のように決まり、総会でも承認され、今後新しい動きが始まります。

- 研究会・同窓会統合後の新名称：研究会を発展させる形で、現在は現職教員のみで構成される「千里地理学会」へ統合し、同窓会を新たに「関大地理同窓会」とし、名称の棲み分けをすることが決定しました。また、千里地理通信の発行元として、「関大地理同窓会」を明記することになりました。
- 統合後の団体の役員について：新設された「関大地理同窓会」の会長として、三好唯義氏が就任しました。
- 役員の役割および名称の変更について：今後の団体運営を踏まえ、若手中心の新たな「幹事」が設けられました。「幹事」は行事等で実働中心の役割を担います。それに伴い、現在の幹事を「協議員」に、本学の現職教員を「常任協議員」に名称が変更となりました。さらに、「協議員」と「幹事」で構成される組織として「役員会」が新設されました。また、「顧問」に前会長の渡邊登氏が就任しました。
- 「幹事」への就任について：松井僚平(新規)、齋藤鮎子(幹事より移行)、田中優生(幹事より移行)、直暁陽(新規)、木場隆弘(幹事より移行)、安田えり(新規)、中井香月(新規)の7名が就任しました。

なお、昨年度いただいた大倉氏からの寄付は大学が管理し随時申請し支出しております。令和3年度は「千里地理通信85号と86号」および『ジオグラフィカ千里2号』(千里地理学会論文集)に支出(予定含む)されました。

●『千里地理通信』および『千里成長記3』の訂正について●

2017年10月に刊行した『千里地理通信』第77号の3頁の「卒業論文・修士論文の一覧」のなかで情報の遺漏がありました。だいぶ前のことで気づくのが遅れましたが、以下のように追記・訂正させていただきます。3名の修了生の皆様には深くお詫び申し上げます。

☆

*『千里地理通信』第77号、2017年10月、3頁

【修士論文 2017年3月修了】 酒井礼央「大阪港第一次修築工事期における大阪港湾地域の産業活動の展開」
清水紀宏「1990年代末以降の大阪市中心地区における分譲マンションの開発動向」
直 暁陽「岸和田市の農村変化の諸相—1970年代以降を中心に—」

この情報をもとにまとめた『千里成長記3』(2019年12月刊行)の「卒業論文・修士論文・博士論文題目一覧(2010年~2019年)も以下のように訂正・追記させていただきます。

*『千里成長記3』、2019年 47頁

2017年3月修了 酒井礼央「大阪港第一次修築工事期における大阪港湾地域の産業活動の展開」
清水紀宏「1990年代末以降の大阪市中心地区における分譲マンションの開発動向」
直 暁陽「岸和田市の農村変化の諸相—1970年代以降を中心に—」

2017年9月修了 栄 蓉「客家に於ける四川客家の文化類似性と差異」

この3名の修了生の数がプラスになるため以下の表も訂正させていただきます。

7頁 表2 大学院博士課程前期課程の年次別、学期別修了者
2017.3 他大学2(追加) 留学生1 計3(訂正)
2017.9 留学生1(追加) 計1(追加)
計 他大学14(訂正) 留学生12(訂正) 計39(訂正)

京阪神大都市圏における鉄道ネットワーク

朱 子同

1. はじめに

京阪神大都市圏はその名の通り、京都市・大阪市・神戸市を中心とした都市圏のことである。日本では首都圏に次ぐ規模を誇り、世界的に見ても大規模な都市圏である。その中でも、GDPや産業では大阪市が抜きん出ている。京阪神の特徴としては、中心市が3市あり、京都市・大阪市・神戸市各々都市圏を形成している。

本研究では、京阪神大都市圏の主要な鉄道駅・鉄道路線の類型化分析を行い、鉄道ネットワークの機能を解明するとともに、京阪神大都市圏の都市構造の変容との関係性を分析する。

2. 鉄道駅の類型化分析

本研究では、京阪神大都市圏において鉄道の研究を行うため、点である「駅」と線である「路線」を分類する。まず、駅を分類するため、駅の位置、構造と、乗換の有無、そして、利用者数、停車車種に注目する。それぞれの要素について、京阪神大都市圏内にある私鉄の駅のデータを収集して分析した結果、以下の8種類に分類することができた。

- a) 大都市大型乗換駅 b) 大都市中型乗換駅
- c) 大都市小型乗換駅 d) 市内経由駅
- e) 運行系統分岐駅 f) 近郊乗換駅
- g) 近郊中大型駅 h) 近郊経由駅

以上の分類は、京阪神大都市圏における駅の類型であるが、東京大都市圏においても適応できるものと考えられる。大阪市を中心とした構造であるが、京阪神大都市圏の場合、京都や神戸の主要駅も中心的な役割を果たしている。a) b) c) の大都市駅は、大阪市、京都市、神戸市の都心部に集中している一方、g) の近郊の中大型駅が郊外に立地している。近郊中大型駅が各自治体の中心駅として存在する例が多数ある。ある意味、近郊中大型駅の分布が京阪神大都市圏の郊外核の分布を示していると考えられる。しかし、合併によって形成された中核市である東大阪市の場合、都市機能が分散した構造であることや、市内の重要な駅として存在する布施駅がe) の分岐駅に分類されたため、近郊中大型駅が市内に存在していない。f) の近郊乗換駅では、近郊で別会社間の乗換が可能な駅であり、一部都心を囲んでいる環状の形で分布している。つまり、近郊乗換駅が環状線機能を補完する役割が多数あると思われる。d) h) の2種類の経由駅はいわゆる以上の種類以外の駅であり、特徴が少なく一般的な駅とも言える。

3. 鉄道路線の分類

続いて本研究では、この駅の分類を踏まえた上で、路線の分類を行った。路線を構成している各駅の性質が、路線の特徴を規定していると考ええる。

そして、路線の分析を行う際には、路線の主要目的地に注目することが重要である。そのため、まずは路線の出発地、到着地の性質を分析する。始発駅と終着駅が立地する場所の特性について分析するだけでなく、隣接する駅の場所についても考慮しなければならない。主要目的地を考えると、利用者数がほかの駅より極端に多い駅が判定基準となる。なお、JR線については、全国的なネットワークとなっていることから、本研究の分類対象とはしなかった。

上記の観点から分析した結果、路線の分類は4類型となり、駅の分類と比較するとシンプルなものとなった。

A パターン：大都市都心間の連絡

Aパターンは、両端が大都市の大型駅・中型駅、または連続の大都市中心部で走る路線である。京阪神大都市圏には京都、大阪、神戸3つの大都市が存在するため、その大都市間に走る路線がAパターンになる場合が基本である。このパターンには、阪急神戸本線・阪神本線・阪急京都本線・京阪本線が該当する。

B パターン：大都市都心と一般都市の連絡

Bパターンは、Aパターンの一端が政令指定都市ではないが、規模がある都市（主には施行時特例市および中核市）になるパターンである。このパターンには、近鉄奈良線・南海本線・阪急宝塚本線が該当する。

C パターン：大都市都心と郊外の連絡

Cパターンは、人口が少ない市町村が主要目的地として存在する路線や、目的地付近が連続の郊外地域の路線である。このパターンには、近鉄大阪線・近鉄南大阪線および吉野線・南海高野線が該当する。

D パターン：郊外・近郊同士の連絡（横断路線）

Dパターンは、環状線機能を有する近郊路線でも言える。都心部の混雑緩和・都市業務地域の分散・周辺都市総合の公共輸送機関サービスの提供・自動車交通抑制に伴う代替交通機関の提供などは、Dパターン路線基本の共通点である。このパターンには、大阪モノレールが該当する。そのほか私鉄における該当パターンは、首都圏の東武野田線が主要な例である。

4. 京阪神圏の鉄道利用の変化と要因

京阪神大都市圏では、1990年代まで郊外化の段階を経て、2000年代より都心回帰の段階へと展開していっ

た。その結果、鉄道ネットワークもその段階に合わせて変化してきた。なお小川（2009）では、人口と雇用の郊外化が鉄道需要を減少させ、自動車交通需要の増加が助長されると指摘している。

京阪神大都市圏では、阪急京都線の特急列車のように、追加料金不要の優等列車において、停車駅が増加する傾向にある。速達性を優先させることよりも、利用者を増加させるためサービス向上（快適性や乗換の利便性など）が重視されている。京都市、大阪市、神戸市を結んでいる、JR 東海道本線と並走する路線では、JR 西日

本の新快速と競合することにより、速達面で優位に立つことができないため、優等列車の停車駅を増やすことによって利用者を増やそうとしている。阪急京都線の茨木市駅・長岡天神駅・桂駅は2001年から、阪急神戸線の夙川駅は2006年から、京阪樟葉駅は2003年から、それぞれ特急（いずれも追加料金不要）停車駅へ昇格した。実際に優等列車の停車の増加は、京阪神大都市圏における郊外核の成長の証でもある。なお南草津駅は、2011年からJR 京都線新快速の停車駅になった。立命館大学のキャンパスの進出により1994年に開業した南草津駅は、駅周辺の地域で開発が進んでいったことから利用者が増加した。草津市の中心駅・草津駅より乗車数が多い年度もある。

郊外地域の居住者の利用状況を改善するため、各路線では座席を改善してきた。追加料金なしで利用できる列車の更新はもちろん、有料座席の導入も有効な手段である。京阪電車は2017年に、有料座席指定車両「プレミアムカー」を導入し、一般的な通勤車両と連結している。同じような方針で、JR 西日本は2019年から新快速の有料座席「Aシート」を導入した。

大阪市内の路線は、主に地下鉄によって構成されているため、運行列車の種類を増やすことは難しい。しかし、京阪、阪神や近鉄では、大阪市内での路線を拡充することによって、路線の魅力を高めることを試みてきた。2000年代以降になると、京阪中之島線、阪神なんば線が開設されており、さらに新線として計画されているのは、なにわ筋線である。

図1より、大阪市内の鉄道駅の利用者数の経年変化を見ると、2010年までは利用者数が減少する駅が多かったが、2010年代以降になると利用者数が増加する駅の方が多くなった。しかし、大阪市の外縁部、またその近郊地域では、利用者数の減少を続ける駅が多数存在している。特にCパターンの路線の郊外部やBパターン路線の一般経由駅では、さらに利用者数が減少している駅が多くなっている。この現象は、B・Cパターンの路線に接続している市内の大型乗換駅の利用者数でも見られる。例えば、近鉄阿部野橋とJR 天王寺駅の利用者数は減少している。つまり、都心における大型乗換駅では、郊外からの通勤や買い物による利用が減少していることが反映されているのである。

このように本研究では、鉄道ネットワークの動向を分析することによって、京阪神大都市圏の構造変容を明らかにすることを試みた。他の交通手段の影響も含め都市圏における人の移動を分析することは残された課題である。

[付記] 本稿は2022年1月に提出した同名の修士論文の一部である。

文献

小川雅司 2011. 京阪神交通圏における鉄道・自動車交通需要と都市構造. 商経学叢, 57 (3), 733-758.

(しゅう しどう：本学博士課程前期課程, 2022年3月修了予定)

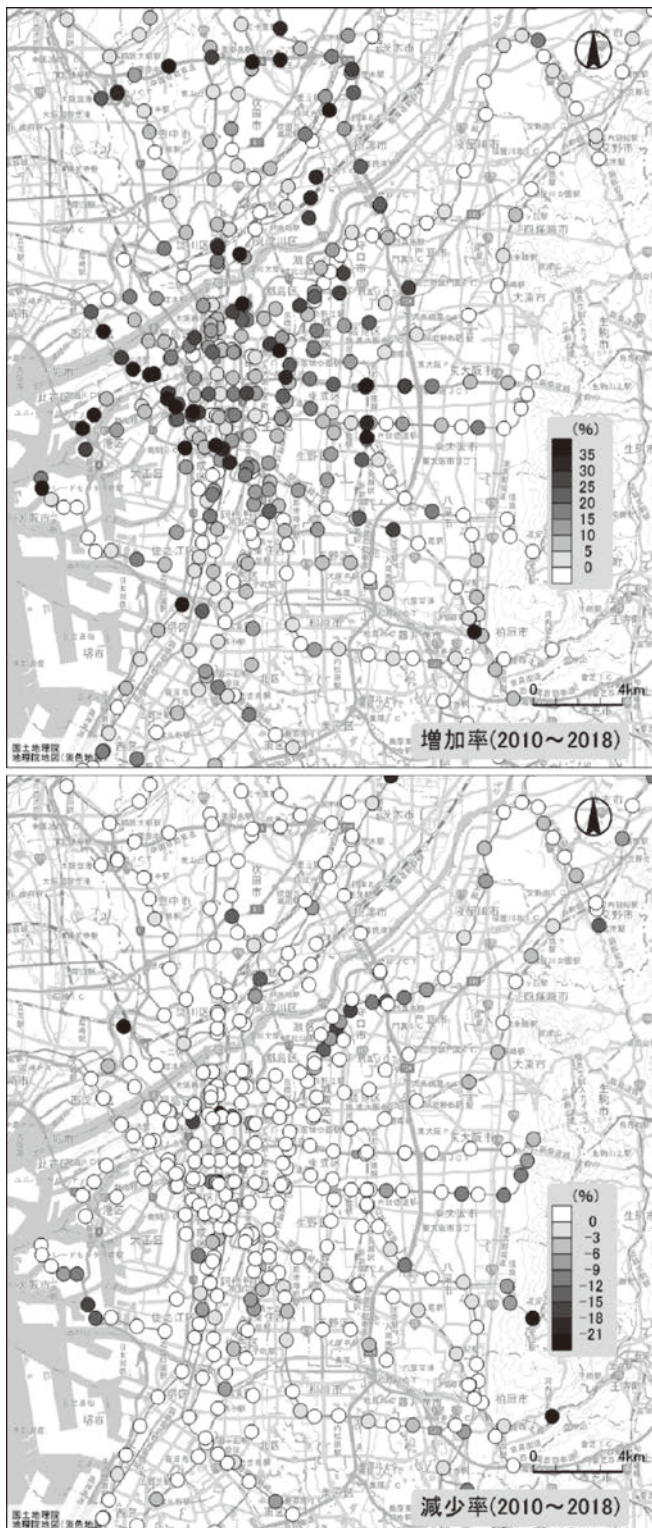


図1 大阪府下私鉄各駅の乗車数の変化 (2010～2018)
(各市町村の統計情報をもとに作成)

〈学部生〉

秦遼太郎

地理学を通じて様々なことを学び、沢山の素敵な仲間に出会うことが出来ました。楽しい時間をありがとうございました！

井上朝日

地理学専修で得られたさまざまな知識や経験は、私にとって大変意義のあるものとなりました。ありがとうございました。

大坪直人

地理学を通じて学び感じた事は数多く、素敵な時間を過ごすことができました。とても楽しい4年間をありがとうございました。

奥田依史子

大学生活を多くの方に支えられ、また、他の専修では学ぶことのできない貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました。

尾上晃也

地理学専修に入り、バス巡検や実習調査が大学生活の中での楽しい思い出となりました。ほんとうにありがとうございました。

楠 和磨

あっという間の大学生活の中で、巡検をはじめ地理学での思い出はどれも深く印象に残っています。お世話になりました。

小林加奈

この専修を選んでとてもよかったと思っています。皆さんと仲良くできてとても楽しかったです。本当にありがとうございました。

四至本翔

受験勉強を通じて好きになった地理を、4年間学べて楽しかったです。先生方や友人にはお世話になりました。有難うございました。

寺田昂右

コロナ禍で巡検が厳しい時もあり、大変なことが多くありましたが、それと同時に充実した生活になりました。ありがとうございました。

寺田優治

地理学での活動を通じて多くの貴重な経験をさせて頂きました。巡検もいい思い出

私は半年間、関西大学文学部地理学・地域環境学専修に、交流学生として授業を受けた。この制度は、関西大学と法政大学が2020年に整備した単位互換協定に基づくもので、学費そのままに双方の授業を受けることができるというものだ。私の本籍は法政大学文学部地理学科にある。コロナ禍に妙な窮屈感を覚え始めていた昨年の12月、この情報が出てすぐ応募し、今年の4月から9月までこの制度を利用した。

今回関西大学に来ることを決めたのには大きな理由がある。地理を学びたい以上に、地元から離れた場所、これまで自分が想定したことのない街に住みたいという願望が突出したのだ。「初めて大阪に住む」ことで、地元のことを捉え直すことができるのではないかと考えていた。

そんなことを考えるのは、物心ついた頃から、ずっと生活してきた街の空気感があまり好きになれなくなってきている自分がいたからだ。私は千葉県柏市という東京30km圏の典型的な郊外住宅都市で育った。生活が市内で完結していた高校までと変わり、法政に通い始めたことで都内も生活圏の一部になった。次第に東京も身近な場所になってきていた。

柏から東京に通い始めて3年、いろんな機会ですら、私は自分の住んでいた柏が、東京があるから成り立っている街だと思えることも増えてきた。自分の生活が、柏だけでなく、この街をベッドタウンにしている「東京」があってこそ成り立っているのだと考えるようになった。大阪に来ることで、そんな東京を、柏を、そこで生活する自分をも客観視できるようになるだろう。こんな考えが、半年間関大に来る原動力になったのである。

そうして私が大阪で身を置いたのは千里ニュータウンだった。築50年の団地を半年間借りた。しかも私が住んだ棟は、70年万博で作ってくる海外からの従業員宿舎として建てられた珍しいものである(写真)。団地に住むのが憧れだったからこれはもう幸せなことだった。中庭を囲むように団地が立ち、緑が溢れ、駅のそばにも関わらず落ち着いた環境である。この部屋からオンライン授業を受け、対面授業期間には関西大学に通う生活を満喫した。阪急電車にも毎日乗れて幸せだった。大学ではゼミ以外にもいくつか授業を取り好き勝手に学んだ。地理学専修の友人もできて、彼らからも

いろいろなエピソードを聞かせてもらった。

一方で、現在4年生というタイミングもあり、常に向き合わなければいけないものもあった。卒業後の進路、私は何をやりたいのか、何をすべきか、という悩み。振り返るとこの半年間は、視野を広げ決断をする期間であった。野間先生には感謝しきれない。こちらから質問すると、いくつもの新たな参照物を教えてくださる。何より先生自身も楽しそうに話をされていて、自分の好奇心に火がつく。目の前の興味をがむしゃらに追求することも、地域のことを地理学の規範に沿って解釈することも、どちらも後押ししていただいた。新たな資料や考え方を教わる間に、一つ一つの興味が有機的につながってくる経験をした。

その経験が、卒業論文につながってくる。池島という、つい20年前まで炭鉱のあった長崎県の離島が対象地域だ。ここに、4年前から勝手な興味で訪れてきた。それがこの半年のゼミで、炭鉱のあったことや観光化というキャッチーな側面ばかりではなく、海で隔たれていることを再考するだとか、長い時間軸の中での位置付け、外部との接触について調べてみるという、複数のしかも広い視点を獲得できた。

今は法政に戻り、この池島の集落立地の変遷に焦点を当てて卒業論文を書いている(2021年10月)。

身勝手な好奇心と地理学の視点で観察することの両者を、正しく使いこなすのは本来難しいはずだ。野間先生からは、その使いこなしの方法を教えてもらえたと思う。これは、私が大阪で生活していたことの意味、一方で地元をどう考えるかという、自身の問題意識にも関わってくるし、これからの生活で大切にしたいことでもある。

あっという間の半年間、千葉県柏市に帰ってきてしまった。今、窓を開けると土が燃えたような乾いた匂いがするのだが、これが柏の秋なのかと初めて気づくと同時に、大阪の匂いや音も思い出す。帰ってきて1ヶ月、今までと同じように当たり前に通う毎日が続いている。大阪にいた間の記憶はそのまま大阪で保存されているようで、一見すれば連続性はない。しかし確かに、私がこの期間に得たものと決断が、大きな分かれ道となった。大阪で、関大で半年を過ごしたという事実が、夢でなく事実だとわかるように、今できることを全うしたい。

半年間親しくしてくれた友人たち、そしてご指導いただいた野間先生はじめ地理学専修の先生方に感謝を述べたい。

(こだま しんたろう：法政大学文学部地理学科、4年次生)



■ □ 実習調査報告 □ ■

宮城県仙台市での実習調査

何 雪瑩

2021年度の実習調査は、宮城県仙台市を対象地域として、黒木先生、土屋先生、ティーチングアシスタントの徐雨辰さん(M2)の指導の下で行いました。本来は、10月5日～9日にかけて仙台市でのフィールドワークを実施する予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で現地4泊5日でのフィールドワークは中止となりました。春学期には現地で聞き取り等の調査を実施するため、各班は聞き取り調査の協力を依頼していましたが、夏休みの段階で中止の判断がなされました。各班の研究テーマは「仙台市と災害—自然環境と社会から—」「宮城県の食産業における東日本大震災からの復興」「仙台市における歴史・文化の継承」「仙台市の基盤の現状と課題」「仙台市における支店経済の変容」「仙台における観光の国際化」の6つでした。

私たちの班は「仙台における観光の国際化」をテーマとし、様々な2次資料を収集しました。現地フィールドワークは中止になってしまいましたが、幸いなことに、調査先の仙台観光国際協会からご理解いただき、Zoomによる聞き取り調査が実施できました。実習調査の授業では、ご指導頂いた先生方及び聞き取り調査や資料提供でご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

私たちの班では、仙台市での観光客誘致事業の現状と課題について調査を行いました。聞き取り調査の準備として、春学期の授業では仙台市観光客動態調査報告書などの調査資料を整理、分析しました。グループディスカッションの上で各メンバーが担当する調査内容を細かく決め、それぞれの調査項目を立てて聞き取り調査項目書を作成できました。Zoomによる聞き取り調査を実施する一週間前、メール



図1 zoomによる聞き取り調査の様子

でZoomミーティング招待URLと調査項目をまとめた文書を仙台観光国際協会に送付しました。Zoomを使つての初めての聞き取り調査では、音声や画面トラブルなど心配が多々ありました。しかし仙台観光国際協会に優しく対応いただいたおかげで、調査は項目書に応じて概ねスムーズに終わることができました(図1)。

仙台観光国際協会の方から近年仙台市国内外のコンベンション誘致事例について説明を受け、2011年の東日本大震災以降、減少した観光客数を取り戻すために行われるようになった観光客誘致活動、特に国際コンベンションがもたらす様々な効果などをお聞きすることができました。そして、2020年仙台開催コンベンションの開催件数と人数などの最新のデータを提供して頂きました。

皆の健康と安全を考慮し、今年は通例の4泊5日での現地調査が中止になり、大変残念でしたが、2次資料の収集とZoomによるインタビュー調査で頂いた情報とデータを用いて分析して報告書を無事に書き終えることができました。コロナウイルスの影響を受けたため、例年とは異なり、オンラインを通じた調査手法が主でしたが、今後拡大されると思われるオンライン主流の社会への対応として、非常に有意義な研究活動であったと感じます。

(か せつえい: M大学院2年次生)

として残っています。本当にありがとうございました。

中村 聡

大学の地理学で、地図と現地観察の両方を通して多くの地域の特色を知り、学びがより深まりました。ありがとうございました。

長尾剛周

物事を自分の目で見て確かめることの大切さを学びました。充実した大学生活を送ることができました。ありがとうございました。

新田慎也

いろいろ文句言いながら過ごしてたけど、思い返せば地理学専修でよかったなど感じている。宮崎に行けなかったのだけが悔しい。

前山みつき

新型コロナウイルスの影響で思うようにいかないこともありましたが、仲間や先生方に恵まれ、充実した大学生活を過ごせました。

矢野裕理佳

コロナで悔しい思いをしましたが、かけがえない仲間に出会い、素敵なお4年間を過ごすことができました。ありがとうございました。

横孝太郎

地理学を通じて、型にとらわれず、新たな分野を開拓する大切さを学びました。ありがとうございました。

山岸諒大

新型コロナウイルス禍という苦しい環境で、先生方や学生の皆さんと地理学を学べたことは貴重な経験となりました。ありがとうございました。

〈大学院生〉

朱 子同

関大地理学教室で過ごした時間は、貴重な経験になりました。学問に励む事だけではなく、地理学の楽しさを実感していました。2年間を支えてくれた先生たちのご指導に感謝致します。

徐 雨辰

修士入学から丸二年間のコロナ禍の深い影響にもかかわらず、先生方、先輩方のおかげで、無事修了することができまして、誠にありがとうございました。

2022年度教室行事予定 (2022年4月～2023年3月)

- 4月7日(木) 専修オリエンテーション A601教室 12:15～12:55
 5月28日(土)～29日(日) 一泊バス巡検 若狭・敦賀 土屋・松井担当
 7月10日(日) 大学院M・D入試(秋学期入学)、春学期大学院M学内進学試験
 7月16日(土) 大学院合同演習(梅田キャンパス)
 9月29日(木) 卒業論文中間発表会
 10月2日(日) 日帰り巡検(伏見・淀) 卒業生も参加可能、野間・土屋担当
 10月4日(火)～8日(土) 地理学実習巡検(松江) 土屋・松井担当
 10月16日(日) 大学院M・D入試、大学院M学内進学試験
 12月3日(土) 関西大学史学・地理学会大会(関西大学) 卒業生も参加可能
 12月10日(土) 第4回千里地理学会大会(関西大学) 卒業生も参加可能
 2月18日(土) 大学院M・D入試、大学院M学内進学試験
 3月20日(月) 卒業式
 3月22日(水) 学位記授与式

神戸市臨海部の変貌と震災復興のいまを歩く

上野 颯亜

2021年11月7日、「神戸市臨海部の変貌と震災復興－港湾、工場、華僑、居留地、商店街」をテーマに神戸市での日帰り巡検が行われた。例年では、10月の第1週に実施されるが、今回は新型コロナウイルスの流行によって1ヶ月も実施が遅れた。私は9月に個人的に下見に行ったが、その見聞が多少薄くなってしまわないか心配だったが、下調べをしっかりとしていたため、幸いにも杞憂であった。そして何より、コロナ渦の中でも中止にせず、安全に巡検を遂行してくださった先生方、並びに私達を受け入れてくださった施設の方々には心より感謝している。この場で御礼を申し上げたい。

巡検当日、我々は阪急春日野道駅のガード下に集合した。私は諸事情で数分遅れてしまったが、集合場所に到着した時には先生や2回生、大学院生といつもの授業メンバーに加え、3・4回生や神戸市立博物館の元学芸員の三好唯義氏といった卒業生の方々までもがお見えになり、総人数は50人に達していただろう。その大人数と共に先生方（野間・土屋）について行き、国道2号線方面へと南進した。昭和の雰囲気漂う春日野道商店街・大安亭市場で美味しそうな食材を横目にし、旧西国街道や生活協同組合「コープこうべ」の建物の側を通過して、賀川豊彦記念館へ到着。コープこうべの設立者である彼は、厳しい子供時代やアメリカの神学校への留学を通してクリスチャンとなり、「平和」「愛と協働」を精神に刻んだ。これらの経験が「コープこうべ」の設立に深く関わっているのはやはり感慨深い。私も様々な経験を通じて、彼のように素晴らしい精神を身につけて、大事を達成したいと感じた。因みに、この場所は現在、教会としても使用されているが、地元のクリスチャン達がパイプオルガンの演奏と共に、礼拝しているのも非常に趣があった。

賀川豊彦記念館を後にして、我々はJR三ノ宮駅周辺へと足を運んだ。人口153万人という日本有数の大都市・神戸市のCBDなだけあって、地方都市と比べても、その差は歴然としていた。また、メインストリートのフラワーロード沿いには、市役所やJRの三ノ宮、阪急の神戸三宮駅など、公共の重要建物が多い。驚くべきことにこのフラワーロードは旧生田川の河道なのだ。明治時代に居留地設定にあたり、水害を防ぐべく生田川の付替工事が行われた。当時の生田川の流路が現在のフラワーロードに当たる。フラワーロード上を行き交う沢山のひと々で、「自分達が今歩いている所が実は旧河道だと認識している人はどのくらいいるのだろうか」、そんなことを考えながら、我々は腹の虫を鳴らして、居留地区画がそのまま残る神戸市の中心市地を元町の南京町へと西進していった。神戸市立博物館前（もと横浜正金銀行神戸支店）では、今回の巡検に参加された当博物館元学芸

課長の三好先生に説明いただいた。

開港された神戸には、日清戦争によって生活の道を失った中国人が金を稼ぐべく、沢山流入してきた。そして、そのような中国人同士がコミュニティを形成し、チャイナタウンとしての南京町が発展していった。しかし、空腹の我々にはそのような歴史的背景のことなど二の次で、とにかく何を食べるか、大勢の観光客に揉まれながら悩んでいたことだろう。それは私も例外ではなかったが、とある定食屋の案内人の、「ウーロン茶飲み放題!」という言葉が決定打となり、そこに入店し、美味なる中華料理を堪能した。

屋台の北京ダックを片手に、我々は昼食後、神戸海洋博物館・カワサキワールドに向かい、港町としての神戸の歴史や川崎重工業について学習した。カワサキワールドには川崎重工業が製造した様々なエンジンや乗り物が多く展示されていたが、身の回りの物から外国のものまで、幅広く展開している川崎重工業の偉大さをよく理解出来たと思う。特に、0系新幹線の車両や座席の展示には、鉄道好きの私としては非常に惹かれ、現在の新幹線では味わうことの出来ない雰囲気を長時間堪能することが出来た。

その後は、みなと元町駅から中央市場前駅に神戸市営地下鉄海岸線で移動し、和田岬界隈へと向かった。この辺りは、兵庫津の南浜にあたるが、平安時代には日宋貿易の拠点として大輪田泊という船の寄港地となったり、江戸時代には幕府の直轄地となったりするくらい、古来重要な地域であった。また、兵庫津は江戸時代に西国街道の宿場町としても栄えたことから、運河も多く造られた。それが現在でも残っているのだから、この地域の重要性を裏付ける理由にもなっている。和田岬付近には三菱重工業の敷地が広がっており、電機工場や潜水艦工場から病院やグラウンドまでもが存在し、もはや労働者の生活圏といっても過言ではないくらいの規模であった。また、JR和田岬線の一日の平均乗降人員は1万人と決して少ない数字ではなく、黒字路線であることから、三菱重工業の規模の大きさが伺えるだろう。

神戸市営地下鉄海岸線の和田岬駅から駒ヶ林駅まで乗車し、我々は最終目的地であるJR新長田駅へと向かった。といっても、ここまで来ると巡検の疲れからか、説明を聞くのに集中が途切れてしまうこともしばしばあったが、それでも何とか資料を見ながら理解に努めた。この疲れというのも一日を通しての巡検の醍醐味であろう。話を元に戻すが、長田区は阪神淡路大震災で最も被害を受けた地域であり、今では幅の広い道路や防火性の高い建物が多く見られる。しかし、実際には被災した住民の意見にあまり耳を傾けず、不釣り合いなハコモノ建造物を増築したことによって、高い管理費が発生し、住

民の生活を圧迫するといったケースも見られた
 そうである。確かに、綺麗に整備された商店街
 とは裏腹に、どことなく賑わいの無さを感じ
 た。災害復興は、ただ単純に町を以前よりも
 整備するのが良いというわけではないことを
 思い知った。この観点は、防災地理学にお
 いて重要視されるのではないだろうか。

今回の巡検は神戸市の臨海部を主に調査
 した。しかし、神戸市の面積は約557km²と
 かなり広く、六甲山や有馬温泉といった観
 光地の多い北区やニュータウン開発の盛
 んな西区、近年CBDが新しく形成されて
 いるポートアイランドなど、今回の調査
 した地域以外にも様々な地区があり、多
 面性豊かである。今後時間に余裕のある
 時にぜひ個人的にも訪れてみたい。ま

た、今回は我々2回生にとって初めての臨
 地説明だったので、資料作成から発表に
 至るまでにおいて、継続したい点や改善
 点が沢山見いだされた。これらの点は今
 後の巡検において活かしていきたいと思
 う。(うへの そうあ: 本学2回生)



神戸海洋博物館・カワサキワールド
 (神戸市中央区, 2021年11月7日)

新専修生からの のひとこと

大学院 (秋学期入学)

楊 珺屹

(大学院研究生)

はじめまして。私は、
 中国湖南省出身です。
 中国の大学から2+2
 という交換留学制度
 で2年前に日本にやっ
 て来ました。学部生の
 時に社会心理学を専
 門として勉強してい
 ました。フィールドワ
 ークを実施した沖縄
 の場所にとってもロ
 マンを感じました。こ
 れからは地理学の視
 点から沖縄の研究を
 継続していきたいと
 思います。どうぞよろ
 しくお願いいたします。

大学院生の研究業績 (2021年1月～12月)

【論文・書評・書籍等】

- 蔡 伊寧 「(書評) 宮内泰介著『歩く、見る、聞く 人びととの自然再生』」, 史泉, 第133号, 40-45頁, 2021年1月
 徐 雨辰 「(書評) 荒尾美代著『日本の砂糖近世史—土を使って白くする! 製造の秘法を求めて』」, 史泉, 第134号, 30-36頁, 2021年7月

【学会・研究会発表】

- 何 雪瑩 「買い物弱者の支援手段としてのインターネット通販の可能性—大野城市を事例に一」, 2021年度関西大学
 史学・地理学大会 (口頭発表), 2021年12月4日
 「宮城県仙台市における自然環境と人間社会」, 2021年度関西大学史学・地理学大会 (ポスター発表),
 2021年12月4日
 閻 伊夢 「日本におけるスキー場の開発史と持続可能性」, 2021年度関西大学史学・地理学大会 (口頭発表), 2021
 年12月4日
 「宮城県仙台市における自然環境と人間社会」, 2021年度関西大学史学・地理学大会 (ポスター発表),
 2021年12月4日
 李 蕊君 「中国におけるソフトウェア産業の発展に関する地理学的研究」, 2021年度関西大学史学・地理学大会 (口
 頭発表), 2021年12月4日
 「宮城県仙台市における自然環境と人間社会」, 2021年度関西大学史学・地理学大会 (ポスター発表),
 2021年12月4日
 蔡 伊寧 「フットパスの特性分析による類型—北海道黒松内町・東京都町田市を例として—」, 2021年度関西大学
 史学・地理学大会 (口頭発表), 2021年12月4日
 「宮城県仙台市における自然環境と人間社会」, 2021年度関西大学史学・地理学大会 (ポスター発表),
 2021年12月4日
 潘 多 「宮城県仙台市における自然環境と人間社会」, 2021年度関西大学史学・地理学大会 (ポスター発表),
 2021年12月4日
 「仙台市の自然・人文地理」, 第三回千里地理学会大会, (院生代表として口頭発表), 2021年12月4日
 高田 協平 「液化化発生地点の地形・地質・年代別特性—一段丘・盛土に着目して—」, 2021年度関西大学史学・地理
 学大会 (口頭発表), 2021年12月4日
 「宮城県仙台市における自然環境と人間社会」, 2021年度関西大学史学・地理学大会 (ポスター発表),
 2021年12月4日

2021年度 実習調査報告書 No.46 目次 『宮城県仙台市の地理 地理学・地域環境学実習調査報告書 (46)』

はしがき

第I章 地域の概観

第II章 仙台市と災害—自然環境と社会から—

第III章 宮城県の食産業における東日本大震災からの復興

第IV章 仙台市における歴史・文化の継承

第V章 仙台市の基盤の現状と課題

第VI章 仙台市における支店経済の変容

第VII章 仙台市における観光の国際化

各章の要旨, 編集後記, 関西大学史学・地理学会 2021
 年度大会ポスター発表資料

英文目次

関西大学文学部 地理学・地域環境学教室発行, 2022年3月刊, 全139頁

ヨーロッパでの在外研究

松井 幸一

2021年度は1年間の在外研究期間であった。今回はせっかくの機会なのでその思い出を書いてみたい。申請時の予定ではベルギーを中心としてヨーロッパを4ヶ月、アジアに6ヶ月滞在し、残りを国内各地の調査に充てる予定であった。しかし新型コロナウイルスの世界中での蔓延により、予定を大幅に変更せざるを得なくなる。4月に入っても大学からの渡航許可は下りず、その一方ですでに申請していたベルギーでの労働ビザの期限だけが過ぎていく。国内でも未だにコロナウイルスが収まる気配もなく、とても他県に調査にいける雰囲気ではなかった。滞在拠点となるベルギーの Ku Leuven 大学からは日本での出国が認められればいつでも受け入れると返事を頂いていたが、いっこうに出国許可がおりず、一時はこのまま出国できずに一年が終わるのではないかと危惧したほどであった。

ようやく夏頃に出国の許可がおりたが、すでに労働ビザの期限が切れかかっており、再び日程の大幅な変更にも迫られることとなった。ベルギーの労働ビザ取得手続きは非常に複雑かつ当局との長期のやり取りが必要になるため、再取得をあきらめ VISA 無し渡航に踏み切った。

ベルギーへはカタルのドーハ経由で入国した。入国審査ではドーハ経由での入国だと伝えると「ISISのメンバーか?」といきなりきついジョークの洗礼を受けた。この話しは私以上に Ku Leuven 大学の先生の方がショックを受けていたが、一部ではやはりアジア、中東系への偏見があるのだと肌で感じた。Ku Leuven 大学のあるルーヴェンは街全体に学部のキャンパスが分布し、まさに大学の街であった。海外の大学によくあるように、Ku Leuven 大学も入学は簡単な代わりに進級が非常に難しく、学生のレベルは非常に高い。学生は基本的に英語とオランダ語は当たり前を使い、さらにフランス語やドイツ語を話すことができる。わずかな英語しか話せない私には信じられない語学能力の高さであった。お世話になった日本学科の学生は日本をよく知っており、私がおこなった日本の城下町に関する授業では近世町民の税に対する質問が出るなど非常に細かな点まで勉強している。



写真1 Ku leuven 大学
中央図書館

私自身の初のヨーロッパという事でまずは見て回る事を重視した。ただいわゆる EU 版ワクチンパスポートへの読み替えに時間がかかり、何とか当局に発行して貰うのに1ヶ月程度かかった。その後はオランダ、フランス、ポルトガル、ドイツ、ルクセンブルクと2週間に1カ国程度のペースでひたすら各地を調査した。とにか

くフィールド重視なので基本的にはバックパッカースタイルである。ホテルではなく Airbnb のような個人間で部屋を貸してくれる場所を探



写真2 ルクセンブルクの旧市街

し転々とした。初めはバックパックに満載の荷物も各国を巡るうちに最低限必要なものだけを持っていくようになり、自分でもずいぶん旅慣れたと感じる。

今回の在外研究は街の景観や城郭都市の調査が主目的であった。街の景観という点ではベルギー、ポルトガルはどこもイメージするヨーロッパや南欧の町並みで美しかった。楽しみにしていたフランスはパリしか見られなかったが画一的なビルと家屋が続く単調な景観で天気が悪かったこともあり陰鬱としていた。イメージとのギャップに落胆する「パリ症候群」という言葉が生まれるのも納得である。ただし他の都市に比べて格段に大きく、さらに公共交通も発達しておりさすがは首都であると感じた。オランダは都市間の牧歌的な景色が素晴らしく、またドイツは建物の軒先が高く感じ他の街よりスケールの大きさを感じた。ルクセンブルクは小さな国であるが、世界の中でも有数の高所得国である。街並みも非常によく整えられ旧市街と要塞は世界遺産に登録されている。見事な環状城壁は一見の価値があり、まさに要塞都市そのものであった。また、ヨーロッパでよく見られるいわゆる市街地の中心から円を描いて街が広がる円村の実態は興味深かった。どの円村型集落にも基本的には中央に広場や教会があり、そこから放射状に道路が延びる。いくつかの都市では中央の広場あるいは教会は高地になっており、自然条件と生活を結びつけた形態なのだとは強く感じた。

またドイツではライン川沿いのブルクと呼ばれる城塞をいくつか巡ったが、日本の近世城下町とは立地条件が異なる事がよく理解できた。その多くは山上に設置されており、イメージとしては中世の山城である。ホテルとして利用されているブルクに徒歩で行き泊まったが、山道は険しくまさに防御のための城である。

各国の自動車規制の進んだまちづくりや国によって異なるビール事情など紙面の都合上書き足りない事ばかりだが、今回のヨーロッパ調査は研究だけでなく人々が生活するヨーロッパを強く感じさせる旅であった。資料や動画も豊富に入手できたこともあり、これを今後の研究、教育に大いに活用し還元していきたい。

(まつい こういち：本学准教授)

教室だより

■2021年度秋学期は、その前半で新型コロナの第5波の到来と終息があり、その後半に第6波が到来するという社会環境変化がありました。この影響で、全学的に遠隔で授業は開始され、途中から大講義を除いて対面授業に戻り進められました。そして、第6波到来に授業期間終了が際どく間に合った感じになりました。この間に対面で予定されていた講習会や学会等は遠隔実施となり、そして実習調査（土屋・黒木担当）は、今期ついに現地調査の断念を余儀なくされ、zoomによる聞き取り調査に頼らざるを得ない状況になり、これまでにない対応が必要となりました。その調査報告書は、例年とかなり内容は異なりますが、なんとか3月の刊行が実現しました。

なお、4月からは在外研究の終了した松井准教授が復帰し、教室運営は野間、黒木、土屋、松井の4名体制に戻ります。

■教員免許状更新講習

2021年度教員免許状更新講習として地理学教室では、9月18日（土）『現場で学ぶ社会科・地理歴史科のフィールドワーク（大阪府吹田市）』（黒木教授、13名）と10月2日（土）『現場で学ぶ社会科・地理歴史科のフィールドワーク（大阪府堺市、羽曳野市、藤井寺市）』（野間教授、11名）を実施しました。なお2022年度の講習は開設されません。

■地域調査士講習会

9月19日（日）に関西大学千里山キャンパスで日本地理学会の2021年度第3回地域調査士講習会が予定されていましたが、新型コロナ感染症拡大を防ぐためZoomにより、連絡責任者の黒木教授が「心構え」の講義を行いました。現在、伊東理・関西大学名誉教授が地域調査士認定委員会委員ですが、4月から野間教授に交代します。

■卒論中間発表会

9月30日（木）10時45分から17時00分まで第1学舎A301で実施しました。昨年同様コロナ対策を注意喚起の上で密を避けての開催でした。発表者は4回生で、卒業論文提出予定の19名でした。

■秋の日帰り巡検

10月3日（日）に秋の日帰り巡検が開催されました。「神戸市臨海部の変貌と震災復興—港湾、工場、華僑、居留地、商店街」でコースは以下の通りでした。担当は、野間教授、土屋教授で、OB含め総勢47名の参加があり、徒歩と市営地下鉄を利用する巡検でした。

阪急春日野道駅～春日野道商店街・大安亭市場～賀川豊彦記念館～三宮駅周辺の変貌～フラワーロード～旧居留地～南京町（昼食・一時解散）～ポートタワー～神戸海洋博物館・カワサキ・ワールド～みなと元町駅～中央市場前駅～大和田泊～兵庫運河～清盛塚～三菱重工業～新長田の震災復興とケミカルシューズ～新長田駅。

■地理学・地域環境学実習

10月5日～9日で計画され準備を進めていた「宮城県仙台市」の現地実習調査は、新型コロナウイルスの感染拡大のため直前で中止されましたが、アポイント先の多大な協力を得てZoomによる聞き取り調査を実施できました。担当は、土屋教授、黒木教授で、受講は3回生24名、大学院博士前期課程1・2年次生8名、ティーチング

アシスタント（徐 雨辰）1名の計35名でした。

調査は、自然環境、食産業、歴史・文化、インフラ、都市経済、観光の各班で分担し、それぞれ大崎八幡宮、株式会社ささ主、小金澤孝昭・宮城教育大学名誉教授、仙台観光国際協会、仙台市危機管理局防災計画課、仙台市建設局総務課、仙台市交通局総務部総務課、仙台七夕協賛会、NEXCO東日本東北支社・仙台東管理事務所、みやぎ亘理農業協同組合（敬称略）から貴重な資料を賜りました。それら成果をまとめた調査報告書『宮城県仙台市の地理』は2022年3月に刊行され、全国の地理学教室やお世話になった関係者・機関に発送される予定です。

■第3回千里地理学会大会・卒論セミナー

12月11日（土）関西大学第1学舎E401教室で、13時～14時まで卒業論文に向かう現3回生を対象に、卒論セミナーを開催しました。担当は黒木教授でした。その後、14時30分から17時まで、同教室で第3回千里地理学会大会が開催され、計66名の参加がありました。その実施には、大学からの学会開催補助をいただきました。大会後は18時まで同学会総会が開催されました。

今回は、本学地理学科出身の田中優生氏、関大以外出身の松村嘉久氏にご講演いただき、野間教授には鉄道との長年の関りを紹介いただきました。またそれに先立って、M1による実習調査の成果報告を行いました。発表題目は以下の通りです。潘多（関西大学大学院博士前期課程の代表）「仙台市の自然・人文地理」、田中優生（公益財団法人 大阪国際平和センター・専門職員）「戦争記憶の語り継ぎと地域の関係性—片町線沿線を中心に—」、野間晴雄（関西大学教授）「鉄道と人生—海外編—」、松村嘉久（阪南大学教授、本学非常勤講師「現場共有と社会的実践で地域を変える—大阪・新今宮から—」）。今回もコロナ禍のため、例年の忘年会を兼ねた懇親会は中止となりました。

■集中講義の実施

2022年1月28日（金）～31日（月）に大学院博士前期課程向けの講義「自然地理学特別研究」が、横浜国立大学の池口明子准教授により実施されました。そこでは、アジア・オセアニアの河川氾濫原、泥炭湿地、干潟などの湿地への人々の適応について、漁業に焦点を当てて教授されました。また30日には実際に泉南市岡田浦漁港等への巡検も実施されました。

■教員の外国出張

コロナ禍で海外渡航は入国制限措置や条件・行動制限措置により実質的に困難なため、この期間の外国出張はありませんでした。その中で、松井幸一准教授が、在外研究のため万難を排して渡航され、10月～翌1月までヨーロッパでベルギーを中心に研鑽を積まれました（帰国は1月）。

■2022年3月の卒業生・修了生

本年度の卒論提出者は17名（全員卒業予定）、大学院博士前期課程の修了者は2名です。卒論・修論題目は秋号に掲載します。2022年2月9日に実施した口頭試問の結果、前山みつきさんの「地域おこし協力隊による棚田保全事業—和歌山県紀美野町中田の棚田を事例に—」が最優秀論文となり、卒業式の折に学部長表彰を受けます。

現在、日本では多くの地域で、経済の活性化や知名度向上を目的に、自治体や市民、企業が協力し、様々なイベントを開催しています。そんな地域イベントの中で盛況なのが、市民参加のマラソン大会です。2007年には東京マラソンが始まり、その成功に触発され、参加者数が1万人を超える大型マラソン大会が相次いで創設されました。マラソン人口も増加し、人々が泊りがけで遠方の大会に参加するのも珍しいことではなくなりました。

私も、そんなブームに乗ってマラソンを始めた一人です。2010年の奈良マラソン（2010年11月）で、初めてフルマラソン完走を果たしました。その後、京都マラソン（2012年2月）や大阪マラソン（2012年10月）といった都市の大規模な大会の参加を経て、今では旅行気分が味わえる地方の小都市や町で開かれる個性的な大会を選ぶようになりました。ここでは、その中で特に強く印象に残っている大会を紹介します。

一つめは、兵庫県香住町の「香住・ジオパークフルマラソン」（2017年4月参加）です。カニ漁で知られるこの町のマラソン大会は、多くの大漁旗が頭上にはためく漁港からスタートします。この大会の走行ルートは海沿いが多く、高低差もあるため、山陰海岸ジオパークの多彩な景観を様々な角度から眺めることができました。ゴール後にカニ汁がふるまわれ、参加賞として発泡スチロールの箱一杯に詰められた冷凍の干物をいただきました。この大会にはまた参加しなかったのですが、2021年をもって終了となったようです。もう一つは、北海道網走市の「オホーツク網走マラソン」（2018年9月参加）です。この大会のスタートは、網走川近くにある網走刑務所の正門前です。そこから東に向かい、オホーツク海岸から能取岬を回って能取湖、そして網走湖へと、海と湖の景色を堪能できるルートを走ります。大曲湖畔園地の広大なひまわり畑が見えたら、コースも終わり間近です。鮮やかな黄色い花がどこまでも連なる風景に感動しながら、ゴールしました。

個性的なマラソン大会といえば、2017年に同僚や地理学研究仲間と一緒に参加したフランス・ボルドーのメドック・マラソンがあります。ランナー全員が仮装することを義務付けられ、走行中の飲酒が推奨される珍しい大会です。2017年に主催者が定めた仮装のテーマは「45RPM」でした。RPM（Rotation Per Minute）はレコードの回転数を示す単位なので、レコード盤時代の音楽に関わる仮装をしなければなりません。そこで、オリビ

ア・ニュートンジョンの1981年の楽曲「Physical」にちなみ、皆でヘアバンドとレッグウォーマーをつけて走ることにしました。ワインは、給水所で水とともに提供されます。給水所となったワイナリーでは、音楽が演奏され、テーブルにワインと一口サイズの食べ物が並べられています。コースの序盤でチーズ、中盤で牛肉のステーキ、終盤でチョコレートが出され、まるで走りながらいただくワインつきのコース料理のようです。

この大会では、ゴール後に記念品としてボトル1本のボルドーワインが渡されます。その夜はもらったワインで皆と打ち上げ、となるはずだったのですが、私だけが、ゴール時に失格となりました。雨の中、走行中にこすれてゼッケンのバーコードの印刷が破損したのでしょうか。係の人が数回試しても、バーコードを読み取れませんでした。原因不明の失格ですっかり意気消沈した翌日、極上の鴨肉のローストとボルドーワインのランチでやっと（少しだけ）浮上したのでした。

さて、2020年に新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、マラソン大会の多くはキャンセルあるいは延期となりました。そんな中で登場したのが、オンライン・マラソンです。参加者は、携帯電話にTATTAというアプリをダウンロードし、設定された期間内に各自で好きなコースを走ります。そして、このアプリで走行距離と時間を計測し、結果を主催者に報告するのです。私も、2020年11月の「オンライン和歌山ジャズマラソン by TATTA」にエントリーしました。やることは普段のジョギングとあまり変わりませんが、今時ならではの貴重な経験と思っています。

最近ワクチンの効果や治療薬開発の明るいニュースもあり、通常に戻ったマラソン大会に参加できる日も遠くなくそうです。地域の特色を生かしたコースと創意工夫を凝らした歓待でランナーを迎えるマラソンのイベントは、全国にたくさんあります。そんな大会に参加するのを楽しみに、今は一人でゆるくトレーニングを続けています。

（よしだ みちよ：和歌山大学観光学部／本学非常勤講師）

千里地理通信 第86号

2022年3月19日 発行 (350部)

関西大学地理学・地域環境学教室、
関大地理同窓会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内
編集担当：黒木貴一・何 雪莹・李 蕊君

TEL：06-6368-1121（内線4890：大学院生室）

e-mail：kandaichiri@gmail.com

url：http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/

郵便振替：大阪 00970-4-81149